

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内、もしくは 2009年4月30日】

団体名 国分寺崖線をつなぐ会

報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度、写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

国分寺崖線をつなぐ地図づくりシステム

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

東京のオアシスであり、緑の背骨ともいえる国分寺崖線は、東京西部の立川市北部から大田区まで、延々30キロメートルほどつづきます。「国分寺崖線をつなぐ会」は、崖線に残るみどりと湧水の連なりを守ろうと、行政区を超えて手を携えながら、市民の参加する「崖線散歩」を通じて、多くの市民に国分寺崖線の大切さを伝えるとともに、市民の声を生かした国分寺崖線ガイドマップを制作することにより、崖線保全に目を向けてもらおうというものです。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

地図は地域を学ぶ上で欠かせない視覚的な表現手段として、いろいろな目的と場面で使われています。そこで、国分寺崖線沿いのJR中央線沿線地域の1枚の白地図を黒板に見立てて、「崖線散歩」等の成果をもとに、さまざまな地域情報を書き込み、それを重ね合わせた地図をつくることによって、「新たな国分寺崖線」を発見したいと考えました。そのために、市民が参加する国分寺崖線散歩と交流の場を設け、一般にアピールできる「新たな国分寺崖線発見地図づくり」について理解を深めました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

どのようにすれば、市民自らが「あらたな地図」を発見することができるのかが、大きな課題でしたが、別添の参考「報告書」にもあるように、具体的に「崖線散歩」をすることで、参加者が自らの記憶や思い出、興味関心を具体的な場と結びつけることができ、これまでにない面白い切り口が生まれてきました。国分寺崖線といえば、その緑や生きものの多様性に関心が寄せられていましたが、このプロジェクトを通じて、人びとの暮らしとの関わりが重要であることが確認されました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

多くの市民が国分寺崖線に深い関心を抱いていることが、具体的に把握できました。最終的に個々の地図レイヤーづくりまでは及ばなかったものの、多くの方が自らの内面にさまざまな地図を持っていることが確認できました。「国分寺崖線をつなぐ地図づくりシステム」では、むしろ基本的な地図レイヤーを多くの方に提供し、それぞれが独自の地図をその上に重ねて、個人的な地図をつくり出すこと、その中からパブリックな形で公表できるものを選択し、新たな地図レイヤーを生み出して行きたいと考えています。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし